

## 2016年度卒業論文・卒業研究論文ガイダンス

社会学専攻  
社会情報学専攻

2012年度入学生より卒業論文は必修ではなくなりましたが、各専攻では、多くの学生は卒業論文を執筆することを想定しています。また、もし卒業論文を執筆しない場合でも、一定の要件を満たす「卒業研究論文」を提出しないと卒業できません。

そこで、**2013**年度入学生に以下をお知らせします。

### ① 卒業論文の履修登録手続きについて

卒業論文の指導教員は、配属先ゼミ教員になります。指導教員の変更は、毎年実施されるゼミ選考会の指示に従ってください。

卒業論文の履修登録ですが、大部分の学生が卒論を執筆することを前提に、4年次の履修登録に際しては**2013年度入学の4年生全員が事前に登録**されています。なんらかの理由で卒業論文を書かないと決めている学生は、各自で、「履修中止期間」中に、履修中止の手続きを行うようにしてください。

「卒業研究論文」は、(4年次のゼミの単位に含まれるため)、特別な登録は不要です。

### ② 卒業論文題目届の提出について

卒業論文提出の前には「卒業論文題目届」の提出があります。卒業論文の執筆予定者は必ず10月20日頃の提出期日までに、「卒業論文題目届」を提出してください。「卒業論文題目届」の届け出がない場合は、卒業論文の執筆を放棄したものとみなします。

提出先は各自の所属専攻の研究室です。

### ③ 卒業論文の提出について

卒業論文のオリジナルの提出先は文学部事務室です。提出期日と時間は厳守です。(2016年度は未定ですが、2015年度の提出期間は12月9日～11日の13時～17時です。)

文学部では、(過去の様々な事例に基づき)、定刻に事務室のドアを閉め、それに1秒でも遅れたら提出を認めないという方式を採用しています。(原則として、いかなる理由でも遅れは認められません。たとえば、体調を崩した・電車が遅れた・プリンタが壊れた・・・などの理由でも、遅れれば「受理」されません。)様々な非常事態が起きうることを想定し、提出期間内の早い日程で提出するよう、注意してください。

尚、卒業論文の複製一部も作成してください。**電子媒体(CD-R等)**も必要です。複製と電子媒体(CD-R等)は社会学専攻の学生は社会学研究室へ、社会情報学専攻の学生は社会情報学研究室へ提出してください。(提出方法の詳細は、各専攻の「提出における注意事項」を参照)

### ④ 卒業研究論文について

卒業論文を書かない学生は、必ず「卒業研究論文」を提出します。卒業論文も卒業研究論文もどちらも書かない場合は、4年のゼミの単位は不合格になります。

卒業研究論文の字数は、最低1万字です。提出方法は卒論とは大きく異なります。

**社会学のゼミに所属する学生は、指導教員の方に、締切日(卒業論文提出最終日と同日)**

までに卒業研究論文のオリジナルと電子媒体（CD-R 等）を提出して下さい。

社会情報学のゼミに所属する学生は、卒業研究論文のオリジナルと複製及び電子媒体（CD-R 等）を社会情報学研究室に締切日（卒業論文提出最終日と同日）までに提出して下さい。

⑤ 「閉架書庫入庫」制度と「特別貸出」制度

3年次以上を対象に、中央図書館では卒業論文・卒業研究の資料収集のために直接閉架書庫に入庫できる制度があります。

又4年次以上になると、卒業論文・卒業研究のために必要な図書・資料について貸出冊数15冊、返却期限を30日まで延長する特別貸出制度があります。

これらの制度を受けるためには、手続きが必要になります。「卒業論文・卒業研究等のための閉架書庫入庫申請書」および「卒業論文等特別貸出申請書」は、共同研究室にも常備されています。申請書には、指導教員の署名と捺印が必要です。詳細は中央図書館で確認してください。又、卒論入庫説明会の開催の日程は図書館内の掲示の他、図書館カレンダーや図書館ホームページからも知ることができます。よくチェックしてください。

⑥ 「卒業論文作成の手引」と「提出における注意事項」について

社会学、社会情報学の各研究室には「卒業論文作成の手引」と「提出における注意事項」が常備されています。社会学専攻の学生は社会学研究室へ、社会情報学専攻の学生は社会情報学研究室へ、早めに取りに行ってください。以上の2点は、各専攻のホームページからもダウンロードできます。

「卒業研究論文」を書く場合も、執筆や提出の注意の基本的な部分は卒業論文に準じることが多いため、これらを手に入れ、熟読してください。

⑦ 過去の「卒業論文」の閲覧について

卒業論文のタイトル一覧は、各専攻ホームページで見ることができます。

過去の卒論の一部は、社会学、社会情報学の各研究室内のPCを使って全文をCD-Rで閲覧することができます。年度によっては卒論本体（印刷物）を手にとって読むこともできます。利用方法については各研究室で質問してください。

以上